

氏名	田中 健一	部署	共通教育科	職名	教授
研究分野	神経科学（生理学・薬理学・病態生化学・実験心理学）・医療薬科学				
学位	博士（医学）・薬学修士				
学歴	1989年：東京理科大学薬学部薬学科卒業，1991年：東京理科大学大学院薬学研究科薬学専攻修士課程修了				
経歴	1995年：埼玉医科大学医学部助手，1998年：岡山大学医学部助手，2003年：就実大学薬学部助教授， 2007年：就実大学准教授，2011年：埼玉県立大学保健医療福祉学部准教授，2019年：同教授，現在に至る				
所属学会（役職）	日本生理学会（評議員）・日本薬理学会（学術評議員）・日本神経精神薬理学会（評議員），日本社会薬学会（代議員）他				

【2020年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	該当なし					
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ	著者、編者名
1	Effect of exercise on angiogenesis and oxidative stress of lower limbs ischemia in SMP30/GNL knockout mice	共著	あり		Int. J. Anal. Bio-Sci. Vol. 8: 71-82.	Maruoka, H., Tanaka, K., Zenda, M., Ogawa, A. and ishigami, A.
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市	発表者（発表者は○印）	発表等年月	
1	青年期における依存の基盤となる心理的特徴の分析	共同	第94回日本薬理学会年会、札幌	○田中健一，金野倫子		
(4) その他						
	名称	単・共	発表場所等	発表者（発表者は○印）	発表等年月	
1	保健医療福祉学部における（神経精神）薬理学教育研究の醍醐味	単著	日本神経精神薬理学会創立50周年記念誌：138-139.	田中健一		
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称	研究名		研究代表者・研究分担者の別	研究期間	
1	該当なし					
3. 教育業績						
(1) 講義						
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）		
1	生理学	○	16コマ・2開講	複数の学科専攻の学生を対象とした必修科目である点を考慮して、授業ごとにポイントをまとめたプリントを作成し、学生の理解を助けるとともに、学習意欲の維持に努めた。⇨ 2020年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、オンデマンド配信による遠隔授業で実施した。		
2	薬理学	○	8コマ	複数の学科専攻の学生を対象とした必修科目である点を考慮して、授業ごとにポイントをまとめたプリントを作成し、学生の理解を助けるとともに、学習意欲の維持に努めた。⇨ 2020年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、オンデマンド配信による遠隔授業で実施した。		
3	看護薬理学	○	16コマ	看護学科の専門必修科目である点を考慮して、授業ごとにポイントをまとめたプリントを作成し、学生の理解を助けるとともに、学習意欲の維持に努めた。⇨ 2020年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、オンデマンド配信による遠隔授業で実施した。		
4	生理学特論	○	16コマ	生理学とのつながりと理学療法学科並びに作業療法学科の専門必修科目である点を考慮して、授業ごとにポイントをまとめたプリントを作成し、学生の理解を助けるとともに、学習意欲の維持に努めた。⇨ 2020年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、ライブ配信による遠隔授業で実施した。		
5	保健医療福祉研究法特論		2コマ	大学院博士前期課程の共通科目であることに加えて、2コマのみ負担する点を考慮して、特定のテーマ<医科学研究法>に絞って授業を行うことで、学生の理解を助ける工夫と学習意欲の維持に努めた。⇨ 2020年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、オンデマンド配信による遠隔授業で実施した。		

6	応用人体構造機能論		2コマ	大学院博士前期課程の共通科目であることに加えて、2コマのみ担任する点を考慮して、特定のテーマ<自律神経系>に絞って授業を行うことで、学生の理解を助ける工夫と学習意欲の維持に努めた。⇨ 2020年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、オンデマンド配信による遠隔授業で実施した。
7	保健医療福祉学際英語		1コマ	大学院博士前期課程の共通科目であることに加えて、1コマのみ担任する点を考慮して、特定のテーマ<実践編1>に絞って授業を行うことで、学生の理解を助ける工夫と学習意欲の維持に努めた。⇨ 2020年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、オンデマンド配信による遠隔授業で実施した。
8	臨床薬理学	○	10コマ	大学院博士前期課程のCNS科目であることを考慮して、専門看護師にとって必要な臨床薬理学の基本的な知識の確認と最新の知見を含む専門性の向上を目的とした授業を行うことで、学生の理解を助ける工夫と学習意欲の維持に努めた。⇨ 2020年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、オンデマンド配信による遠隔授業で実施した。
9	高次脳機能と病態制御	○	8コマ	大学院博士前期課程の共通科目であることを考慮して、授業ごとにポイントをまとめたプリントを作成し、学生のニーズを初回授業で確認し、出来る範囲で授業に反映させて、学習意欲の維持に努めた。⇨ 2020年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、ライブ配信を一部併用したオンデマンド配信による遠隔授業で実施した。
10	加齢神経運動機能論	○	4コマ・2開講	大学院博士後期課程の共通科目であることを考慮して、授業ごとにポイントをまとめたプリントを作成し、学生のニーズを初回授業で確認し、出来る範囲で授業に反映させて、学習意欲の維持に努めた。また、試みとして、授業内容を録画して、WebClassにてオンデマンド配信を行っ
(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要(教育内容・方法等において工夫した点)
1	理学療法特別演習		1コマ	理学療法学科の4年生を対象とした国家試験対策を意識した専門必修科目で、1コマだけ、生理学について担当した。過去問ベースの練習問題を作成し、学生の理解を助けるとともに、学習意欲の維持に努めた。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要(教育内容・方法等において工夫した点)
1	生理学実習(理学療法・作業療法)	○	8コマ	理学療法学科及び作業療法学科向けの内容で、学生が興味を持って実習できるように内容を工夫するとともに、基盤となる座学の知識と結びつくような指導を心掛けた。⇨ 2020年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、遠隔での自宅実習を中心に行い、10月上旬に通常の8分の1の人数に制限した形で対面での補講実習を行った。
2	生理学実習(健康行動)	○	8コマ	健康開発学科行動科学専攻向けの内容で、学生が興味を持って実習できるように内容を工夫するとともに、基盤となる座学の知識と結びつくような指導を心掛けた。⇨ 2020年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、遠隔での自宅実習で行った。
3	ヒューマンケア体験実習	○	2019.4-9	メイン科目責任者として第6グループを総括するとともに、総括・主任科目責任者を補佐した。⇨ 2020年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、遠隔での実習に変更して実施した。
(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文	通年	主指導 2名	副指導 0名
2	修士論文		主指導(指導教員) 0名	副指導(指導補助教員) 3名
3	博士論文		主指導(指導教員) 0名	副指導(指導補助教員) 10名
(5) その他				
	名称	期間	概要(教育内容・方法等において工夫した点)	
1	埼玉県立大学における生理学・薬理学等の基礎医学科目に関する学習支援	通年	再履修の学生を中心に、授業時間外の補習授業の実施と学習支援のための指導を行っている。	
2	博士前期課程における修士論文審査	通年	主査1名	
3	博士後期課程における博士論文審査	通年	主査1名	
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				

	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	該当なし			
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称		任期
1	日本神経精神薬理学会	会員交流促進タスクフォース委員		2020.11より1年
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容		年月
1	該当なし			
(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	該当なし			
5. 学内運営				
	項目	内容		期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	専門基盤科目担当者会 会長		2019～2020年度
2	全学的委員会及びセンター業務等	高等教育開発センター 所員		2019～2020年度
3	全学的委員会及びセンター業務等	大学院教務委員会 副委員長		2019～2020年度
4	全学的委員会及びセンター業務等	入試委員会 委員		2019～2020年度
5	全学的委員会及びセンター業務等	研究倫理委員会（動物部門） 副部門長		2019～2020年度
6	全学的委員会及びセンター業務等	共同実験管理部会 部員		2019～2020年度
7	大学広報活動	オープンキャンパス：人体の構造と機能展2020Web版		2020年度
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）				
	受賞名	主催		受賞年月
1	該当なし			
7. 特許の取得				
	特許名	特許番号		登録年月
1	該当なし			
8. 特記事項				
1	有害物質等管理主任者として、有害物質等研修会にて講師を務めたり、見回りを担当し、本学の有害物質等の適正管理に貢献した。			